



NPO 法人

茨城県防災士会だより

「現認証者数 194 人」

発行日 平成 28 年 10 月 吉

発行元 特定非営利活動法人

茨城県防災士会

責任者 広報・機関紙部長

加瀬孝雄

1. 平成 28 年度いばらき防災大学の防災啓発研修会における講演報告

平成 28 年 7 月 23 日(土)下妻市公民館において、茨城県防災・危機管理局防災・危機管理課が主催する表記研修会が開催された。茨城県から NPO 法人茨城県防災士会に「災害図上訓練 DIG」について依頼があり、当法人講師、サブ講師 22 名が参加し、開催された。

この研修会は、地域の防災リーダーを育成することで自主防災組織の結成を促進し、地域の防災力を図ることを目的としている。「災害図上訓練 DIG」では、約 200 名の出席のもと、各 18 テーブルに防災士がアドバイザーとして立ち合い、進捗状況や理解度を確認しながら参加者をリードし研修を進めた。



(撮影安東防災士)

2. 水戸市社会福祉協議会の避難所運営ゲーム(HUG)研修～茨城新聞掲載～

平成 28 年 8 月 24 日(水)、水戸市赤塚(社会福祉協議会施設ミオス)において、社協支部長、自治会役員、自主防災役員等 70 名が、避難所運営ゲームの研修を受講した。

水戸市社会福祉協議会長は、「首都直下、東南海トラフ地震等はいつ発生しても不思議ではない。鬼怒川決壊、集中豪雨等の自然災害に備えるため実のある研修を期待したい。」と挨拶を頂いた。研修中、茨城新聞の取材もあり、白熱した討議の様子が掲載された。

タイトルは「水戸市社協 避難所運営を学ぶ・カードを使って疑似体験」のみだして紹介された。

講師は、県央エリア、県南央エリア等の役員、サブ講師 10 名



(撮影水戸市社協)

3 本年度第一回スキルアップ研修会



平成 28 年 7 月 28 日(日)土浦市三中地区公民館において、常総市水害時の活動報告、地区防災計画の進め方、防災グッズ作成(ビニール袋の活用、段ボールベットの作り方)等についてのスキルアップ研修会が行われた。参加者は、53 名となり、近年にない出席者となり、防災士の研修意欲の高まりを感じた一日であった。

(撮影藤城広報部員)

4. 平成 28 年度茨城県・高萩市総合防災訓練

平成 28 年 8 月 27 日(土)高萩市高浜運動公園、高萩小、秋山小等が会場として主催者、一般参加者は約、5,000 人の中、開催された。茨城県防災士会は、メイン会場で建物筋交いモデル、感震ブレイカー体験用モデル、空き缶コンロ等を展示した。

高萩小・秋山小では、地区自主防災組織に対し、避難所運営訓練 HUG の指導を行い、県知事一行も視察するなど、関心の高さを示した。(茨城県防災士会役員、会員 13 名参加)



(撮影渡辺防災士)

5. 龍ヶ崎市民防災フェア2016 の開催



平成 28 年 8 月 11 日(木)龍ヶ崎市文化会館において、竜ヶ崎市防災協議会、住民自治組織連絡協議会主催の防災フェア(参加人員約 1,000 人)が開催された。茨城県防災士会では、役員、会員 6 名が参加し、ブースを設け、住宅耐震化、ブレイカー、自動遮断機等の展示を行い、防災・減災の意識の高揚を図った。

(撮影藤城広報部員)

6. 各種講演会・研修会の実施

(1) 茨城県関係(茨城県生活環境部 防災・危機管理局 防災・危機管理課)

内 容	開 催 場 所	講 師 等
災害図上訓練 「DIG訓練」	いばらき防災大学	中村義徳、大川太作、澤田孝一、間宮和光、 野村 彰、桜井哲也、山田章、宮本博海、横山 松夫、中島悌次、鈴木親男、笠島昇治、矢野 靖彦、高山芳男、荻野悦男、安東正好、鈴木 勇、井上亮二、益子さや子、中村隆、福島末輝 西村正夫

(2) 学校関係

前号掲載以降に行われた各種講演会等における講師は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

講演内容	対象団体名	講 師 等
児童、生徒を中心とした 防 災 教 育	つくば市立小野川小学校	福島末輝、横田信子
	日立市立中里中学校	小室 太、小川欽也、益子さや子
	水戸飯富特別支援学校	渡辺 平、加瀬孝雄

(3) 自治会、自主防災組織、社会福祉協議会関係

前号掲載以降に行われた防災講演は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

内 容	対 象 団 体 名	講 師 等
自分を守り地域を守る	高萩市社会福祉協議会	櫛田 英、小川欽也
災害に備えて園ができること、や っておくこと	幼稚園こども園研究協議会	益子さや子、柴田美智子、西村正夫 山本美和
自分を守り地域を守る	高萩市社協防災研 究会	櫛田 英、小川欽也
避難所開設と運営訓練	常陸太田地区 自主防災組織及び教職員等	海野定文、渡辺 平、櫛田 英 小川欽也、益子さや子、柴田美智子
DIG図上訓練	常陸太田市防災対策課 自主防災組織及び教職員等	海野定文、渡辺 平、櫛田 英、小川欽也 益子さや子、柴田美智子
DIG図上訓練午前の部(ヤフー4 ×3使用)	常陸太田市防災対策課 自主防災組織及び教職員等	飛田昭、大高仁護、志田美智子、志村謙一 渡辺平、高矢芳幸、加瀬孝雄、西村正夫
DIG図上訓練午後の部(ヤフー4 ×3使用)	常陸太田市防災対策課 自主防災組織及び教職員等	大高仁護、飛田 昭、志田美智子、志村謙一 渡辺 平、高矢芳幸、加瀬孝雄、西村正夫
乳幼児を持つ家庭の防災	八千代町教育委員会	安東正好、鈴木 勇
大規模災害の教訓と地域防災	学校防災連絡協議会準備会	西村正夫、中村 隆
古河市第1地区避難所開設運 営訓練	古河市総務部危機管理課	飯沼実、安東正好、笠島昇治、矢野恵津子 矢野靖彦、高矢芳幸、藤城允英、野村 彰 鈴木 勇、西村正夫
大規模災害の教訓と地域防災	小美玉市立下吉影小学校 防災連絡会	中村 隆、西村正夫

避難所開設図上訓練 「HUG」	水戸市社会福祉協議会	加瀬孝雄、渡辺 平、志村謙一、福島末輝 横田信子、阿久津 聡、林 昌子、志田美智子、大内洋治、飛田 昭、大高仁護
災害に備えて園ができること、や っておくこと	県立幼稚園認定こども園連絡 会	柴田美智子、益子さや子、山本美和、 西村正夫
自分を守り地域を守る	高萩市社会福祉協議会	小川欽也、節田 英
乳幼児を持つ家庭の防災	八千代町教育委員会	安東正好、鈴木 勇
避難所の開設と運営研修	牛久小学校地区社会福祉協 議会、防犯・防災専門部会	林昌子、渡部輝雄、鶴長文正、貝塚 勇 坂 弘毅、野村彰、横山松夫、横田信子 黒田一雄 中村 隆
自助・共助のあり方	須和間区自治会自主防災組織	志田美智子、加瀬孝雄
夏休み対策協議会及び指導者 研修会(HUG 研修)	牛久市 PTA 連絡協議会	渡部輝雄、鶴長文正、山田 章、宮本博海、 野村 彰、黒田一雄、中村 隆

(4) 防災訓練への参加

前号掲載以降に行われた防災訓練における参加状況は、以下の通りである。(敬称略、順不同)

内 容	対 象 団 体 名	講 師 等
茨城県高萩市 総合防災訓練	茨城県高萩市	柴田美智子、小川欽也、櫛田 英、海野定文、小室 太、 鈴木孝二、
高萩市総合防災訓練 「2ヶ所実施」	○ 秋山小学校舎 ○ 高萩小学校舎	渡辺 平、志村謙一、磯野好久、益子さや子、西村正夫、 井上亮二、志田美智子、小川欽也、加瀬孝雄
地域と学校の合同防 災訓練	那珂湊第二小学校	加瀬孝雄、山根 実、高矢芳幸、
防災訓練 「AED、救助、救急」	筑西市立中小学校PTA	尾形正彦、酒井佐代子、太田儀一、鈴木 勇、安東正好、 荻野悦男
啓発物の展示(感震 ブレーカー、液状化現 象等展示)	龍ヶ崎市民防災フェア	中村 隆、小池實、野口正弘、間宮和光、 藤城允英、鶴長文正、
みと・まち・情報館(防 災特集・茨城新聞主催)	家庭の防災・地域の防災	加瀬孝雄
茨城新聞(防災の日)	防災レシピ	益子さや子
震災時の対応要領	ひたちなか市防災イベント	益子さや子、豊崎吉光、志田美智子、柴田美智子、 阿久津 聡
石下中学総合防災 訓 練 「震災時対応」	常総市立石下中学校	黒田一雄、横山松夫、鈴木 勇、野村 彰、石引公子、 宮本博海、荻野悦男、安東正好、福島末輝、藤城允英、 澤田孝一

※ 研修会・講習会出席者調査(報告のあったもの) 広報・機関紙副部長 小池 實

関東・東北豪雨を振り返って

一年前の9月9日、気象庁から大雨に関する情報が出された。鬼怒川は1日で300mmの雨が降ると水位が堤防ギリギリまでくることが知っていた。10日の朝になってみると、鬼怒川流域の雨量は軽く300mmを超えたようであった。昼過ぎには溢水したとのニュースが流れ始めていて、これはただ事では済まないだろうと考えたものの私は重度の障害者であり両親も80歳になる高齢者であったので、どう避難したら良いのか、もわからずに時間が過ぎていった。午後2時頃、私が介助でお世話になっているヘルパーさんが心配して駆けつけてくれ、鬼怒川が決壊したとの情報も入ったので、安全策を取って避難しようということになり、ヘルパーさんに運転をお願いして、つくば方面に車を走らせた。我が家は、その後、床上46cmの浸水をしてしまいました。この時、避難していなければ、どうなっていたか知れない。今回、重度障害者の私が安全に避難できたのも、危機感を持って事前に情報収集していたことと、ヘルパーさんの危機を察した訪問と早めの避難行動をすることを決めたからだと思う。

(災害時要配慮者:福島副理事長紹介)

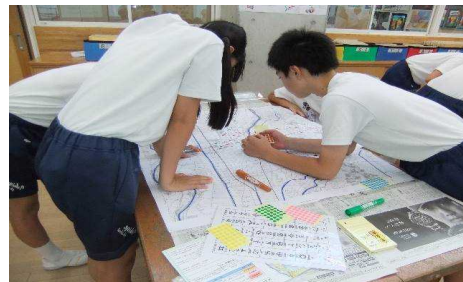
「常総市、関東・東北豪雨から1年・各学校での児童生徒の取組み」

「防災の日」の9月1日、常総市内の19小中学校で防災訓練があった。昨年9月の「関東・東北豪雨」による鬼怒川決壊を教訓に、どう逃げればいいのかを各校の場所状況に応じて児童・生徒が考え、小学生は卒業生の中学生と一緒に避難経路を歩き、危険なポイント、安全地帯などを確認した。なお、インタビューを受けた、指導役の野村防災士は「自分の住んでいる町を知ってもらって緊急時にどうするかを考えるきっかけにして欲しい」とコメントを述べた。

中学生はNPO法人茨城県防災士会の指導で、常総市の地図に河川や道路、避難場所・緑地別に塗り分け、自宅や病院の場所を記載し、ハザードマップを参考に洪水想定地域を作成した。生徒の発表では自宅は水没するので、登校・下校の際は自宅に戻らない、自宅に居るときは出来るだけ早く避難する、家族との話合の必要性等各5班のグループから発表があった。



撮影 黒田
防災士



◎参考資料の紹介 ～タイムライン～日本の防災対策が変わる

「最近の台風・洪水・土砂の災害で自治体の対応の遅れや不備が指摘される中、注目されるタイムライン防災」
内容は、①日本の防災の課題とタイムライン、②紀宝町でのタイムラインの策定、タイムラインで地域を繋ぐ、そして日本が変わる③タイムラインの今後の活用策

著者 NPO 法人環境防災総合政策研究所 副所長 松尾 一郎 発行 日刊建設工業新聞

◎今後のイベント案内

- (1) NPO法人茨城県防災士会県内被災地視察研修 平成 28 年 12 月 18 日(日)
- (2) 日本防災士会地区防災計画研修(県総合福祉会館水戸市) 平成 29 年 1 月 28 日(土)

会員の皆様へお願い ;

「関東・東北豪雨による鬼怒川決壊に思うこと」や「常総市へのボランティア活動体験」を会員皆さんに募集しています。原稿は、400～500字程度でお願いします。

・送付先 : 〒310-0844 水戸市住吉町15-3 加瀬 孝雄 宛

・E メールアドレス: abcd25621@yahoo.co.jp

・Tel : 029-248-1097. 携帯 090 2202 5737